

NY生活ウーマン

週刊NY生活は、家庭や職場、学校で美しく生きる女性たちを応援します。



茶道の心で見童絵画教室

アートクラス、茶道教室主宰
北澤恵子さん

子供たちの絵が素晴らしい。今年もニューヨーク日系ライオンズクラブ主催平和ポスター展に3人、過去には日本生命主催のグループ絵画コンクールに5人も入賞した。指導者はニューヨークジャージー州の自宅で教える北澤恵子さん。北澤紫宗の名では、表千家流茶道講師として自宅だけでなくマハットの天理文化協会やブルックリンで指導にあたる多才な人だ。アートクラスは2010年に始めた。「子供は素直、いいものを持っているので表現する方法を知らなくてもいい」と北澤さん。「最初は黒を使わせない」「比較的安いが、いい画材を探してすすめている」「本物を見せて、自分のものにさせる」など、北澤さんならで

は指導の極意がある。小学生には月1回のアートクラスで「頭の中のセンスを伸ばして、本物を楽しむ」指導を、中学生以上には週1回で「3Dを2Dで描く」という本質を見る基礎トレーニング」をデッサンの反復を通して指導する。奈良県で生まれ育った北澤さんは、紙があつたらいい絵画

展に常に入賞する「絵のうまい子」だった。習字、そろばん、続いて小学校3年生から茶道を習い始める。と、茶道に夢中になった。絵もうまくて、お茶も習っている。すごい」と周囲に褒められ自分に自信を持てるようになった。スポーツも好きで中学と高校はバスケット三昧。友人に誘われて大阪芸術大学を受験するが失敗。慌てて受験対策塾へ1か月半通つて、スポーツバブル夕指導の下、泣きながらデッサンを描き続け、現役入試より難しい一般入試という実技試験だけの枠で30倍の難関をパスした。大阪芸大で商業デザインを学んだのは、高校大から雑誌『私の個室』や『アンアン』の「インテリア大賞」に部屋の改装を投稿しては何度も掲載されるなどして興味があつたから。インテリアデザインの会社に入社して5年勤めるも「やっぱり絵が描きたい」とニューヨークのFITへ。油絵を専攻して教授にも認められて画家として大成することを夢見ながら、やはりインテリアも好きだったので家具屋に就職した。グループ展にコツコツ参加しながら、夫コツチさんと出会つたのもこの頃。ニューヨークでは、1999年から茶道を再び習い始めて2009年に講師資格を取得、教え始めた。子供たちに教えることから「見たままに描くところなるんだ」とその創造性に驚かされたり「邪念をとる」ということを常に学ぶという。絵の指導の時も、子供たちには背筋を伸ばして、汚さないように「パレットは右横に置いて…」という「作法」をきちんと教える。少女時代、打ち水されて花が活けてあり香が焚きしめられた茶道の先生の家に通うのが楽しみで仕方なかった。絵を習う子供たちの心の中に、絵だけではない何かが残ればと願っている。小味かおる、写真・西田まゆみ